

教員インタビュー（前期課程）

島に赴任しようと思ったきっかけを教えてください。

一番のきっかけは、2年ほど前に同期が3名ほど同時に小笠原諸島に赴任したことです。最初は、びっくりしましたが、話を聞き、島の学校や生活の様子、そこで働く魅力を知り、私自身も島しょ地区で働きたいと考えるようになりました。

児童（生徒）の人数が少ないことについて、どう感じていますか？

人数が少ないことを知りながら利島に来たのですが、実際児童・生徒の前に立つと本当に少ないと感じました。ですが、人数が少ない分、児童・生徒に向き合える時間が増え、一人ひとりをさらによく知ることができることは、とてもいいと思いました。人数が少ないからこそ、どのように長所を活かしていくかを考える大きいチャンスです。

島の学校と内地の学校で違いがあると感じることは何ですか？

利島小中学校では、全員の児童・生徒と関わることができることが大きな違いだと感じています。また児童・生徒が ICT 機器の活用慣れており、タイピングの速さやスライド等の使い方がとても上手だなと感じました。さらに児童・生徒が、自分の住んでいる地域のことについて詳しい知識をもっていることが素晴らしいと思いました。

仕事や日常生活において、赴任前のイメージと違ったことを教えてください。

「どのような生活になるのだろう」や「不便さもあるだろうな」という不安な気持ちはありましたが、今はことわざ通り「住めば都」です。生活に必要な最低限なものは揃いますし、利島は東京から近いため、すぐに用事を済ませることもできます（流されなければ…）。教職員や地域の方々とお互いを支えながら暮らしていくことがとても印象的で、心強いです。

日常生活での買い物はどうしていますか。

内地にいた時とそこまで変わることはありません。島にある商店で、基本的なものは購入しています。またインターネットを通して買い物をすることもありますし、週末など内地に戻って買い物をすることもあります。

休日は、何をして過ごしていますか？

家族と充実した休日を過ごしています。釣りに出かけたり、社会体育に参加しスポーツをしたりしています。またとてもいいことが、隣の島にちょっとしたプチ旅行に行けることです。仕事の疲れが、一瞬で吹き飛びます。

島の学校に来て、最も印象に残っていることを教えてください。

利島小中学校の校庭は、天然芝です。そのため草刈りは、業者などをお願いしていると思っていましたが、校務分掌を見てみると、その中に「芝刈り委員会」があり、教員が日頃から手入れをしていることが印象的でした。

島への赴任を検討している方に一言お願いします。

タイミングや事情がある人もいると思いますが、行けるのであれば絶対にそのチャンスをつかむことだと思います。島しょ地区でしか経験できないことはたくさんありますし、教員としての視野を広げる機会にもなります。私自身、まだ利島に来てまもないですが、ここに来て心の底から正解だったと自信をもって言えます。